

「障害児から障害者へのサービス切り替え時に顕著に現れる課題の見える化」

アンケート調査結果報告書

名古屋市自立支援連絡会  
令和 7 年 8 月

<目次>

I	アンケート調査の概要	3
II	アンケート調査の結果	5
III	総括	8

# I アンケート調査の概要

## ■調査の目的・事例

### ・調査の目的

名古屋市自立支援連絡会では、各区の自立支援連絡協議会の活動で明らかになった市域レベルで取り組むべき課題を集約・抽出し、その課題の解決に向けて協議を行っています。

令和6年度は、課題の一つとして「障害児から障害者へのサービス切り替え時に顕著に現れる課題」を取り上げることとし、一例として以下のような事例が報告されました。

この課題の現状を具体的に知るため、相談支援事業所等を対象にアンケートを実施し、その結果を本書にまとめ、見えてきた課題を検討していきます。

### ・事例（例）

放課後等デイサービスを利用している児童が学校（中学校、高等学校及び特別支援学校高等部）を卒業した後、多くのB型事業所や生活介護事業所は15時ごろに営業時間が終了するため、放課後支援に代替する社会資源がない。そのため、親（主に母親）が就労時間を短くせざるを得ない状況が生じている。就労時間を短縮することが難しい親は夕方から利用出来る地域活動支援事業所を探し、その近くにあるB型や生活介護事業所を探すという状況がみられている。代替手段として移動支援や居宅介護の利用が考えられるが、ヘルパー不足により難しい。

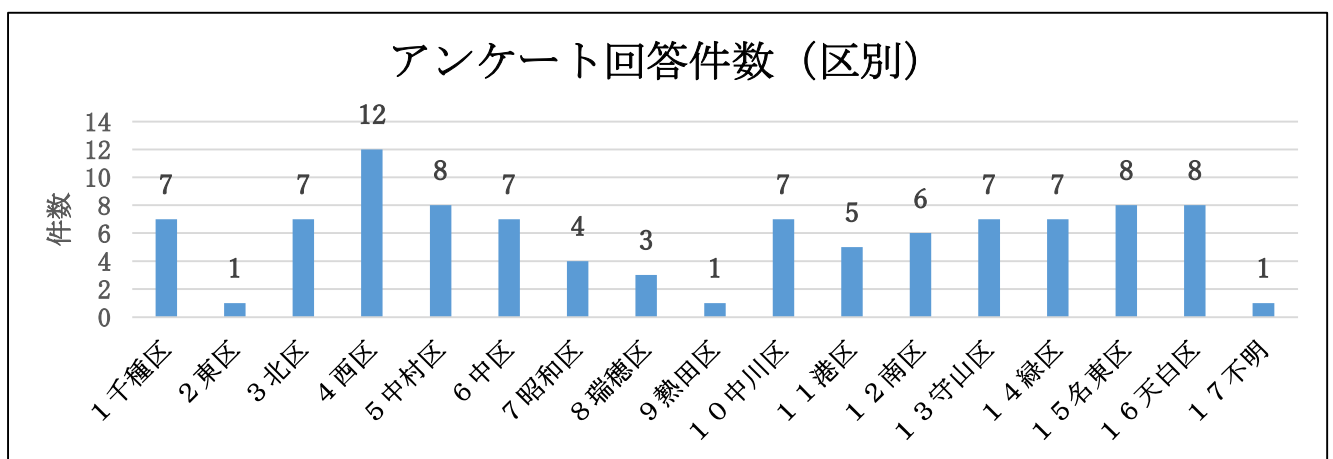
## ■調査対象者

- ・名古屋市内相談支援事業所相談員
- ・名古屋市障害者基幹相談支援センター相談員

## ■調査期間

令和6年8月14日～8月30日

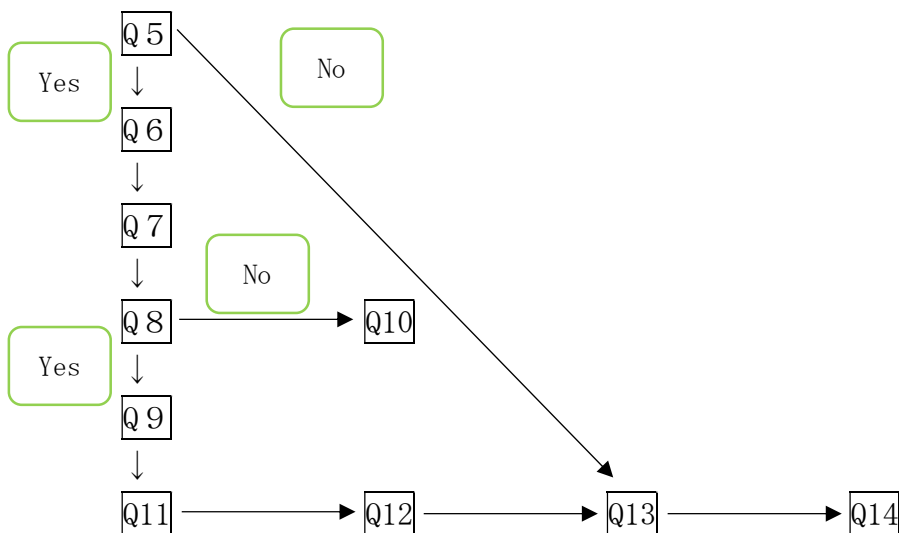
## ■アンケート回収件数 99件



## ■調査項目（一部内容省略）

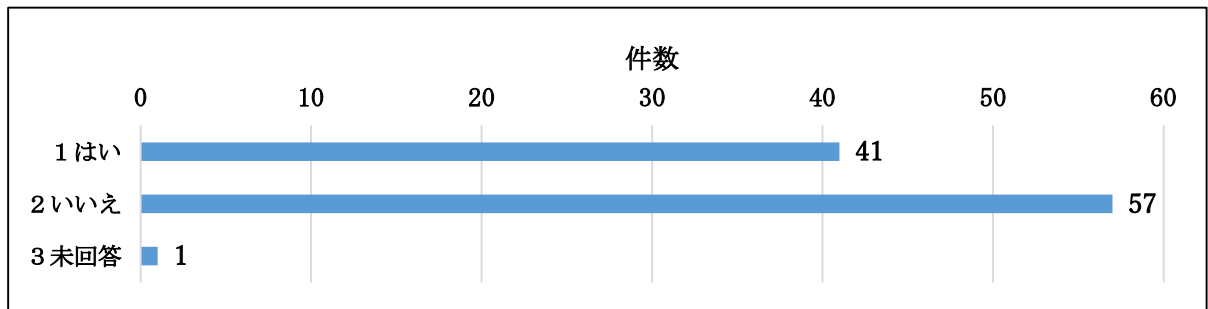
- Q1 事業所の名称
- Q2 回答者氏名
- Q3 メールアドレス
- Q4 電話番号
- Q5 担当しているケース/過去の担当ケースで【事例】のようなケースはありますか
- Q6 Q5の【事例】のようなケースに該当した方は学校卒業後、どのような障害福祉サービスを利用されていますか？（複数回答可）
- Q7 該当のケースの概要についてご記入ください。
- Q8 Q7の該当ケースについてサービス調整の結果はどうでしたか？
- Q9 調整の結果はどのようになりましたか？（複数回答可）
- Q10 調整できなかった理由は何ですか？（複数回答可）
- Q11 記入いただいたケースを通して感じた課題はありましたか？
- Q12 Q11で回答した課題について、内容をご記入ください。
- Q13 担当しているケース/過去の担当ケースの方は平日の夕方の時間帯をどのように過ごしたいと希望されていますか？理由も含めてご記入ください。
- Q14 今回の事例に関わらず、障害児から障害者へのサービスの移行にあたって生じている課題があればご記入ください。

## ■アンケートフローについて（参考）

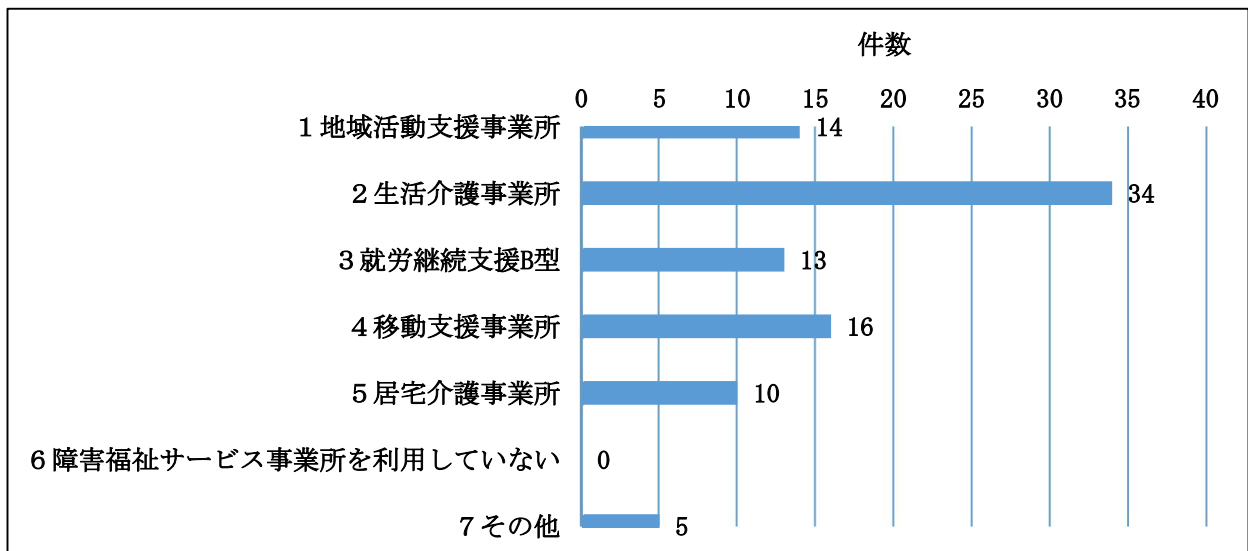


## II 調査結果 (Q1～Q4 は省略)

Q5 担当しているケース/過去の担当ケースで【事例】のようなケースはありますか？



Q6 Q5 の【事例】のようなケースに該当した方は学校卒業後、どのような障害福祉サービスを利用されていますか？（複数回答可）



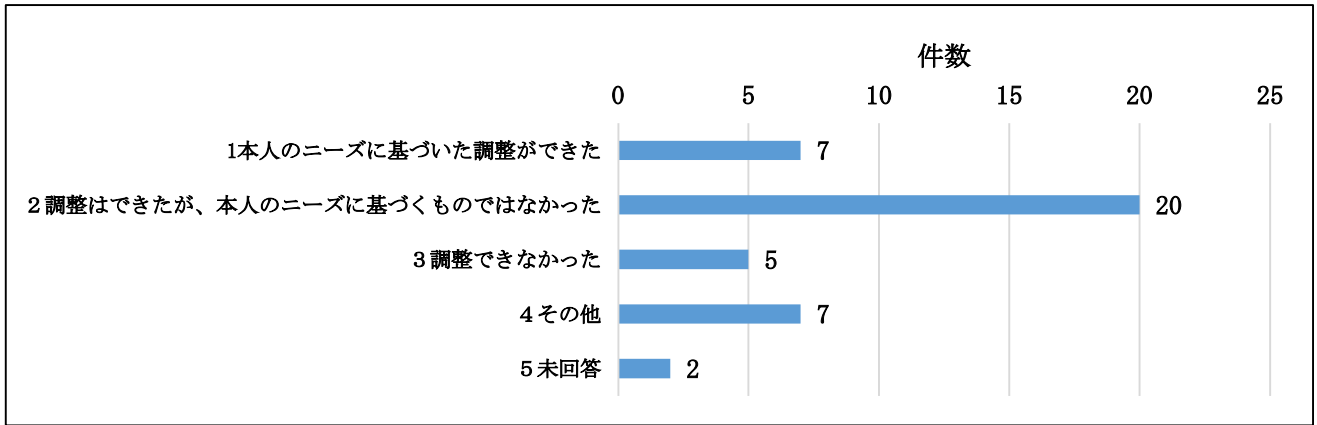
<その他の主な記載内容>

日中一時支援、重度訪問介護、短期入所、行動援護の利用など

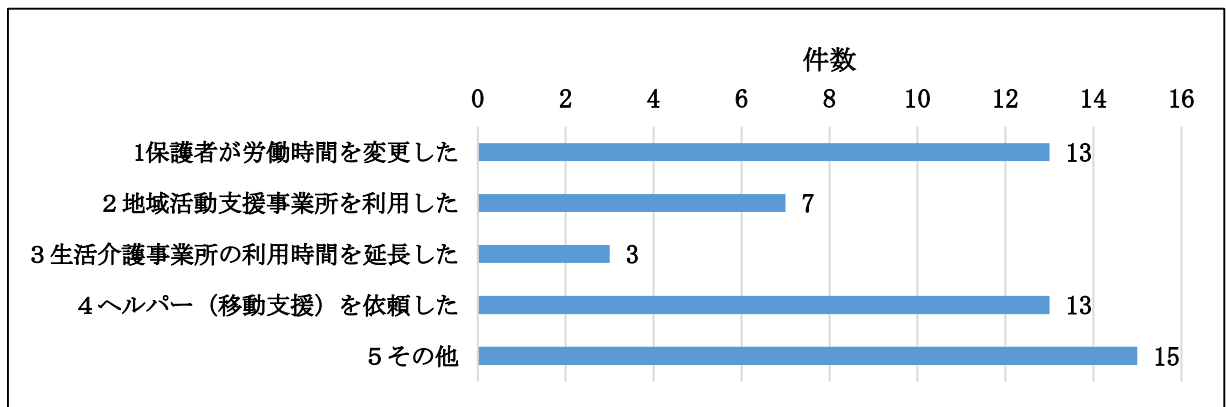
Q7 該当のケースの概要についてご記入ください。

別冊（案）のとおり

Q8 Q7の該当ケースについてサービス調整の結果はどうでしたか？



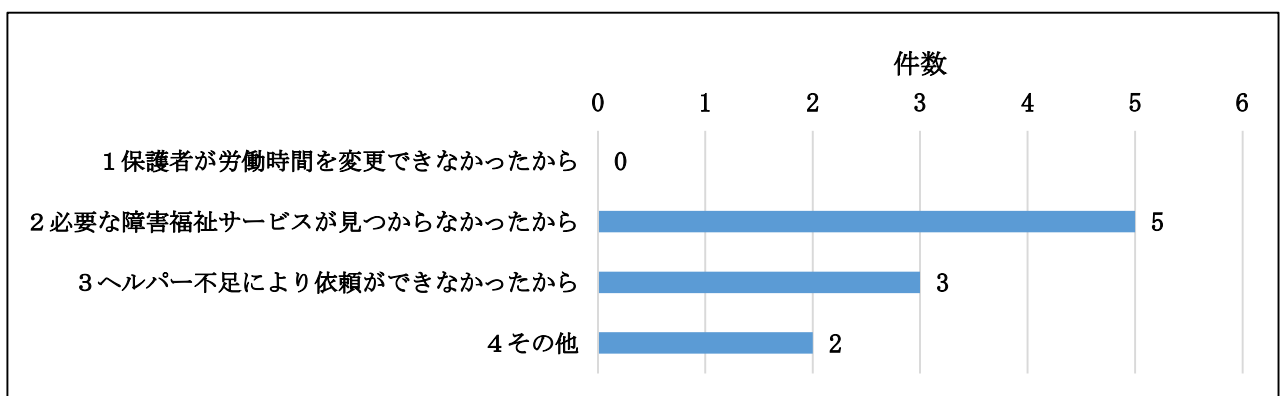
Q9 調整の結果はどのようになりましたか？（複数回答可）



<その他の主な記載内容>

引っ越し、保護者の退職、居宅介護の利用、行動援護の利用、日中一時支援の利用、事業所の変更、親族の協力を得た、短期入所の利用、重度訪問介護の利用

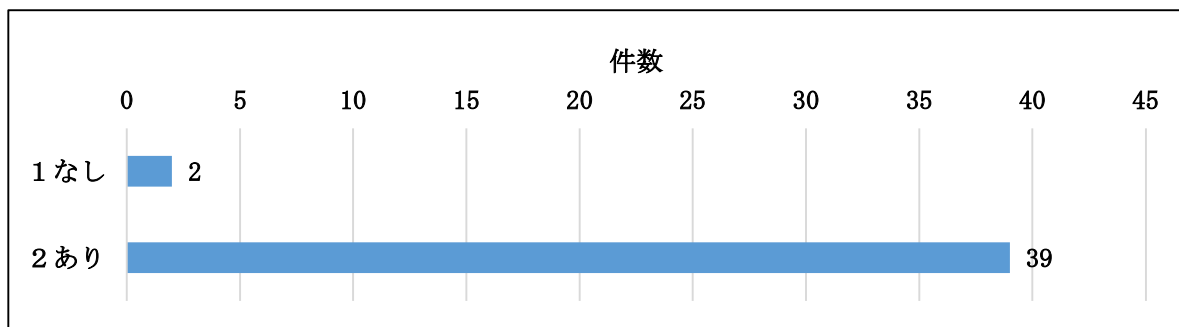
Q10 調整できなかった理由は何ですか？（複数回答可）



<その他の記載内容>

- ・生活介護、B型ですでに月8日の支給決定がおりているため、地域活動支援センターの支給決定がおりなかった。また、定員に空きがあり送迎可能な地活がみつからなかった。
- ・地域活動支援センターの16時前後の時間帯の職員不足により、利用ができなかった。

Q11 記入いただいたケースを通して感じた課題はありましたか？



Q12 Q11 で回答した課題について、内容をご記入ください。

別冊（案）のとおり

Q13 担当しているケース/過去の担当ケースの方は平日の夕方の時間帯をどのように過ごしたいと希望されていますか？理由も含めてご記入ください。

別冊（案）のとおり

Q14 今回の事例に関わらず、障害児から障害者へのサービスの移行にあたって生じている課題があればご記入ください。

別冊（案）のとおり

### Ⅲ 総括

#### 回答の傾向

- 回答ケースの多くが愛護1度もしくは2度の重度知的の方であり、自宅で一人過ごすことが難しいため、障害福祉サービスを併用や保護者、親族の方の協力のもと対応しているケースが多く見受けられた。
- 放課後等デイサービスに代替する障害福祉サービスが現存していないことで、日中は就労継続支援B型や生活介護を利用し、夕方は地域活動支援事業を利用するケースが多く見受けられた。
- 「サービス調整ができた」と「サービス調整ができなかった」の定義付けが曖昧であったため、Q8の回答選択肢であった3項目について回答に大きな差は見られなかった。
- 調整ができたケースとして、生活介護とヘルパー（移動支援、行動援護、居宅介護など）の組み合わせによって、調整が上手くできているケースが見受けられる。また、生活介護の特例支給や土日祝の利用ケースも少なからず見受けられた。
- 「調整はできたが、本人のニーズに基づくものではなかった」場合の回答の特徴としては「保護者が労働時間を変更した」ケースが多く見受けられた。
- 余暇のニーズについては「自宅でゆっくり休みたい」、「外に出かけたい」、「慣れた場所で継続して長い時間を過ごしたい」など多種多様なニーズが見受けられた。また、本人のニーズについて意思表示があまりなかったことが予想されるケースや回答者の推測で記載されたケースも複数見受けられた。

## アンケート調査で見た課題と18歳到達前に留意すること

### <課題>

- ・移動支援のヘルパーが不足（送迎のサービスが不足）しているため、本人が望む放課後（余暇）の過ごし方を選択できない場合がある。
- ・18歳到達を機に障害支援区分の認定や卒業後の進路選択に必要なアセスメントなど、新たな利用手続きが発生し、サービスの利用までに期間を要するため、スムーズなサービス利用に繋がらない場合がある。
- ・18歳到達を機にそれまでの主たる支援機関の支援対象から外れ、結果として、家族だけが支える体制となる場合がある。
- ・特に障害児から障害者へのサービス移行当初に、年齢差等によって他の利用者等との関わりに苦慮する場合がある。

### <18歳到達前に留意すること>

特別支援学校卒業後の余暇の過ごし方を、在学時から考えることが重要である。学校、本人、相談員などが連携の上、以下の点に留意して卒業後の生活に備えることが必要である。

- 卒業後の本人・家族の生活の見通しの共有
- 本人のニーズ等を踏まえた活用可能な社会資源の情報収集
- 18歳到達後の支援体制の構築
- ヘルパーの利用が集中する時間帯を避けた支援内容の検討
- 事業所の事前体験の機会など、障害児から障害者へのサービス移行時の本人の心理的負担への配慮の検討